

法律論叢第 61 卷 4・5 合併号

島田正郎教授古退休記念論文集

1988 年 3 月 15 日刊行

掲 載 内 容 【 論 説 】	(頁 数)
第一部 公 法 学	
構成要件的事実の錯誤と違法性の錯誤（禁止の錯誤）との限界・・・川 端 博	(1)
議会改革運動とチャーティズム「人民憲章」(People's Charter)との 関係について——一九世紀イギリス憲法史における選挙権拡大化 過程の一側面——	小 山 廣 和 (23)
アパルトヘイト条約の法的性質	住 吉 良 人 (79)
複合的行政過程論の動向	田中館 照 橘 (137)
刑罰法規の主観的・目的論的解釈 ——クライの所説をめぐって——	増 田 豊 (167)
四十年目の大幅労働基準法改正を考える——その実と虚——	松 岡 三 郎 (195)
捜索・逮捕のための「相当な理由」 ——二分枝テストと全体状況アプローチ——	山 田 道 郎 (247)
ケベック・レファレンダムと八二年憲法の制定	吉 田 善 明 (291)
主権・国家・歴史——デュギー『公法の変遷』における——	和 田 英 夫 (339)
第二部 私 法 学	
裏書不連続手形による支払呈示の効果	小 松 俊 雄 (385)
昭和一三年商法改正と東京商工会議所	三 枝 一 雄 (403)
他人のためにする保険契約と被保険者の責務	坂 口 光 男 (451)
死因贈与契約の系譜と構造	武 尾 和 彦 (485)
事実上の機関——西ドイツ法を中心として——	南 保 勝 美 (553)
「安全配慮義務の存在意義」再論	新 美 育 文 (583)
一九世紀後半におけるフランス契約責任論の胎動 ——完全性利益の侵害と契約責任論——	平 野 裕 之 (615)
第三部 基 礎 法 学	
敦煌本唐戸婚律放部曲為良条について ——P.3608・P.3252 の再検討——	岡 野 誠 (651)
法の象徴的機能と強制の限界 ——アメリカの「麻薬」問題をめぐって——	栗 本 慎 一 郎 (697)
絶対主義時代の小領邦における国家・社会・領邦議会 ——一七世紀～一九世紀初頭ザクセン＝ヴァイマル侯国の国制史概観——	千 葉 徳 夫 (719)
隋大興城造営の詔と平常遷都の詔	鍋 田 一 (759)
島田正郎教授略歴並びに著作目録	(775)
附 言	鍋 田 一 (805)
※論文は、第一、二、三部に大別し、著者の五十音順に配列	